

第2弾 出前授業（福岡第一高等学校）【概要】

実施日：令和4年6月22日（水）

参加者：福岡第一高等学校 工業課 1～3年生 26名

場所：福岡第一高等学校（福岡県福岡市南区玉川町22番1号）
グラウンド他

【カリキュラム】

10:00-10:25 オリエンテーション（実習室）

10:30-11:15 路面標示の作図、施工作業を体験（グラウンド）
【協力企業：日本ディックライト(株)、双葉工業(株)】

出前授業の様子（福岡第一高等学校）①

オリエンテーション



作業体験



作業体験動画



作業後の意見交換での質問

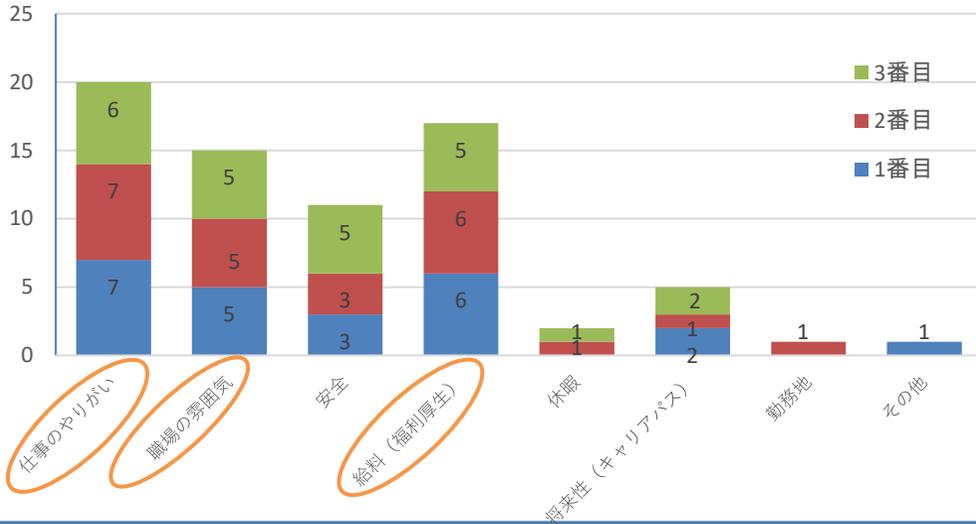
- ・給与はいくらですか？
- ・引いた線はどのくらいもつの？
- ・一番難しいところは？



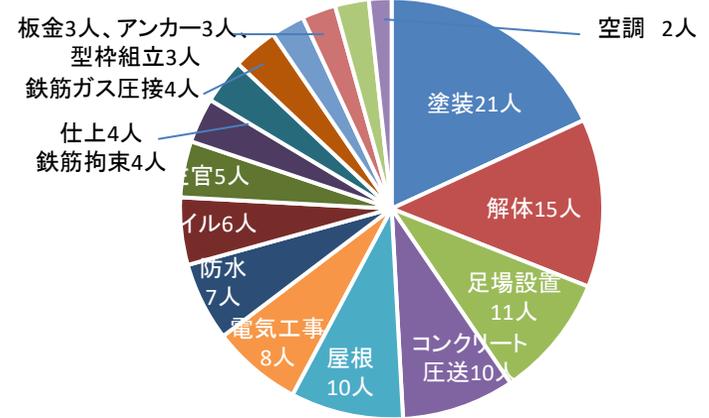
生徒のアンケート結果【学校キャラバン】

学校キャラバンに参加した福岡第一高校の生徒26人が回答
(男性26人、女性0人)

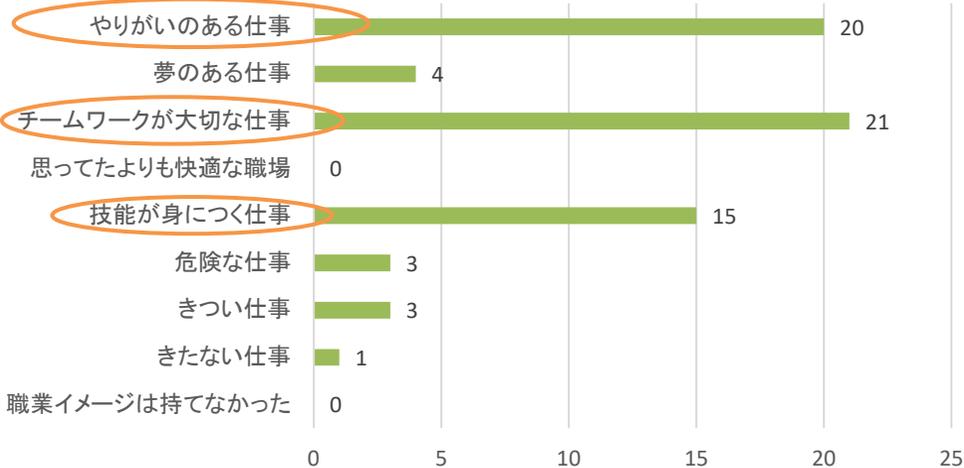
職業を選択する際に意識する項目
(意識する順番ごとに3項目を選択)



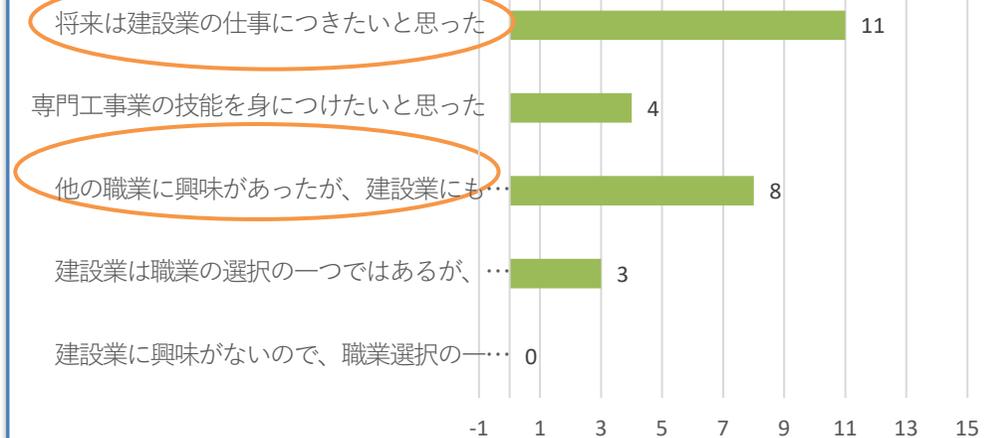
○その他体験してみたい専門工事業について(複数回答あり)



建設業のイメージは?(複数回答)



建設業が職業選択になったか



アンケート結果③

主な感想、興味を持ったこと

- ・チームワークが大切な仕事だとわかった。看板などの図に興味を持った。
- ・実技で難しいところがあったが、やりがいのある仕事だと思った。
- ・まっすぐ線を引くだけでもとても難しかったが、やりがいのある仕事だと思った。
- ・プロの技術者の方の現場を近くでみることができ、光栄だった。自分達の身近なところで職人さんたちの技術を見ることができる素敵な仕事だと感じた。
- ・道路の線の描き方などよくわかり興味がわいた。残りの学校生活で技能を身につけていきたい。
- ・今回の出前授業で建設業に興味を持つことができた
- ・雨が降ったら中止になることがわかった。雨が降って仕事ができないときに何をしているのか知りたい。
- ・将来性があることが重要だと思った。
- ・近くで仕事を見たことがなかったのでみることでよかった。もっと詳しく話がしたい
- ・とてもやりがいがありそうな仕事だと思った

教員のアンケート結果

- ・今回はお忙しい中お時間をいただき、子供たちのために出前授業を実施していただきありがとうございました。とても貴重な経験ができ、充実した時間を過ごすことができました。

福岡第一高生徒に路面標示

整備局、九州建専連が出前授業



20年から業界と行政が一体となり、高等専門学校を訪問し、生徒、保護者、教員に対して建設業の社会的な役割やものづくりの素晴らしさを直接語り掛ける、交流するプログラムを行っている。

出前授業には、福岡第一高等学校工業科に通う1年生から3年生までの約30人が参加。授業開始に伴うオリエンテーションでは、全福岡九州協会福岡県支部の星子支部長と九州地整の西津建設産業調整官がいさづ。星子支部長は、道路標識・標示は、道路交通に秩序をもたらす、なくてはならないもの。実例では、作業を見て触ってもらう。私たち業界に興味を持っていただきたたい。西津調整官も「建設業は現在、若い力を必要としている。本日の見学会で興味を持ってもらい、将来の選択の一助にしていただければ等と語り掛けた。

オリエンテーションではビデオを放映し、道路標識・標示業の仕事や魅力などを紹介。引き続き

日本ディックライト㈱と双葉工業㈱の協力の下、グラウンドにおいて路面標示の作図と施工作業を実演。生徒らはその様子を見学するとともに、実際に路面標示機を手にとって作業を体験した。

実演後の質疑応答では、生徒から「標示されたラインは、どのくらい保たれるのか」「工事は夜間が多いのか」「正確さとスピードを比べるとき、どちらが大切なのか」など数多くの質問が投げ掛けられ、星子支部長は一つ一つの質問丁寧に回答していた。

授業に立ち会った同校の西津浩教諭は、「今回の機会を通して生徒は、社会や働くことへのイメージをより身近に感じられたと思う。将来の職業選択の幅が広がることにつながってもえれば」と話した。

九州地方整備局と建設産業専業業専門団体九州地区連合会は22日、福岡第一高等学校の工業科の生徒を対象に、学校キヤラバン（出前授業）を行った。

今年度2回目となる出前授業は、(一社)全国道路標識・標示業九州協会協会の協力により、路面標示の作業体験などを実施し、写真、参加した生徒らは、今回の授業を通じて道路標識・標示業に興味を持った様子で、指導役を務めた同協会福岡県支部の星子洋尚支部長に、時間いっぱいまで質問を投げ掛けた。

九州地整と九州建専連は、建設業への若手入職者の減少や高齢化などの諸課題を踏まえ、担い手の確保・育成のための取り組みを実施しているもの。その一環として、平成

建築土木科30人が路面標識の作業体験



九州地方整備局と建設産業専門団体九州地区連合会(九州建専連、杉山秀彦会長)は22日、建設業の社会的な役割やものづくりの素晴らしさを体験し、将来の進路として考えるきっかけにしてもらうこと、福岡市南区の福岡第一高校で出前授業を開いた。建築土木科の1、3年生約30人が参加。生徒らは全国道路標識・標示業九州協会福岡県支部会員から仕事内容の説明を受け、路面標識の作業を体験する

九州地方整備局と建設産業専門団体九州地区連合会(九州建専連、杉山秀彦会長)は22日、建設業の社会的な役割やものづくりの素晴らしさを体験し、将来の進路として考えるきっかけにしてもらうこと、福岡市南区の福岡第一高校で出前授業を開いた。建築土木科の1、3年生約30人が参加。生徒らは全国道路標識・標示業九州協会福岡県支部会員から仕事内容の説明を受け、路面標識の作業を体験する

九州地方整備局と建設産業専門団体九州地区連合会(九州建専連、杉山秀彦会長)は22日、建設業の社会的な役割やものづくりの素晴らしさを体験し、将来の進路として考えるきっかけにしてもらうこと、福岡市南区の福岡第一高校で出前授業を開いた。建築土木科の1、3年生約30人が参加。生徒らは全国道路標識・標示業九州協会福岡県支部会員から仕事内容の説明を受け、路面標識の作業を体験する

九州整備局 高校で出前授業

路面標識の作業のデモンストラーションを実施。生徒による体験もあり、施工機で線を描いた同校3年の秀島一彰さんは「施工機をまっすぐ押すだけでも大変だった。いつも見ている路面標識の作り方を知ることができ進路の参考になった」と感想を述べた。

同校の彰弘副建築土木科長は「現場を知る貴重な機会。就職への意識を高める上でも重要」と話した。九州整備局と同連合会は担い手の確保・育成に向け今後も出前講座を継続して開催するとしている。